

2018年総合生活改善についての談話

1. 自動車総連全体の取り組み経過について

- 我々自動車総連は、完成車メーカーのみならず、車体・部品製造、販売・サービス、輸送、一般などの業種、雇用形態、規模などの違いにかかわらず、産業に集う全ての仲間の真の幸せの実現、そしてバリューチェーン全体ひいては日本の経済・社会全体の持続的な成長・発展を目指し、総合生活改善の取り組みを始めとした様々な取り組みを推し進めている。
- そうした中、2018年総合生活改善の取り組みにおいては、「働く者の将来不安の払拭と日本経済の自律的成長」に向けた道筋を確かなものにする取り組み意義に定め、「賃金引き上げを始めとした労働諸条件の改善」「働き方の改善」、そして通年の取り組みである「付加価値の“WIN-WIN 最適循環運動”」の3つが連動した活動を自動車総連一体となって推し進めることで、総合生活改善における真の意味での構造転換、働き方を含めた自動車総連全体の底上げ・格差是正の前進を図ってきた。
- とりわけ賃金引き上げにおいては、各単組のこだわりある要求構築の結果、全体で1,068単組が単純平均で3,403円の賃金改善分を要求、中でも規模の小さい単組ほど積極的な賃金要求を掲げる等、非正規労働者の処遇改善や企業内最低賃金等の取り組みとも相まって、要求段階において、「底上げ・格差是正を何としても進める」とした自動車総連全体の意思が強く示された。
- 2月14日（水）の統一要求提出日以降は、全体の交渉環境づくりを担う拡大戦術会議登録組合（12組合）が先行的に交渉をリードし、その中で、要求に込めた強い思いを主張するとともに、本年はとりわけ、産業の大きな転換期を乗り越えていくべく、企業の競争力強化や職場の生産性向上等、将来に向けた話し合いに多くの時間をかけ、交渉を重ねていった。
- そうした中、経営側は、組合員が果たしてきた労働の質の向上や努力に対しては確実に理解を示しながらも、個別要求項目、とりわけ賃金について、産業の大転換期に向けた人への投資はどのようにあるべきか、将来の競争力への影響や組合・組合員の覚悟を見極めるべく慎重かつ厳しい態度を一向に崩さず、交渉終盤になっても水準論議が進まない異例の状況となった。
- こうした状況を打開すべく、集中回答日を目前に控えた3月10日（土）、第3回中央生活闘争委員会において、
- ・全ての単組は、自らの目指す賃金を実現すべく「底上げ・格差是正を何としても進める」とした自単組の要求に込めた思いに強くこだわり、最後まで交渉を追い上げる。
 - ・とりわけ、全体の回答引き出し環境を先行的に構築する拡大戦術会議登録組合（12組合）は、そうした自動車総連全体の強い思い、そして自職場の強い思いをエネルギーとして結束し、昨年獲得実績を大きく超えるべく、最終盤の交渉を機動的に追い上げる。
 - ・各労連は、自動車総連全体の強い意思を形にし総合生活改善における真の意味での構造転換を確実に前に進めるべく、中小を始めとした加盟単組の最大限の回答引き出し、解決の早期化に繋がる具体的な戦術・サポートを展開する。
- ことを、賃金における「回答引き出しに向けた基本態度」とし、自動車総連一体となって最終盤の交渉を追い上げていくことを確認した。

2. 拡大戦術会議登録組合（12 組合）の回答状況について

○本日 14 時 30 分現在、拡大戦術会議登録 12 組合の内、11 組合で正式に回答を確認した。

<賃金>

○経営から水準感が一向に示されない状態が回答指定日ぎりぎりまで続くという、極めて異例かつ厳しい状況の中、最後の最後まで粘り強く押し込みを図った結果、現在までに回答を引き出している全ての単組において、昨年以上の賃金改善分を引き出すことができた。

○この全体の結果は、自動車産業が大きな転換期を迎えている中、これまで組合員が果たしてきた「労働の質の向上」とともに、難局を乗り越えていくための「人への投資」の必要性、そして何より将来の競争力強化に向けた組合員の「決意・覚悟」を強く訴え続けたことが結実した、価値ある成果と受け止める。それと同時に、これから本格交渉を迎える中堅・中小単組の交渉における確固たる土台となり、「底上げ・格差是正を何としても進める」とした自身の意思を形にすべく交渉を追い込んでいく中堅・中小単組への力強い後押しになるものと強く期待している。

<非正規労働者に関する取り組み>

○現在までに回答を引き出している全ての単組で、時給や日給の有額での回答引き出し、あるいは一般組合員に連動した賃金・一時金の獲得等、各単組の状況に応じた結果に繋がっており、ともに働く仲間の意欲・活力や一体感の向上、そして、労働組合の社会的役割といった観点でも、確実な前進が見られていると受け止める。

<年間一時金>

○現在までに回答を引き出している全ての単組で満額に相当する回答を引き出した。このことは、一年間の組合員の努力・頑張りと成果に報い、更なる意欲・活力に結びつけるべく、各単組が最大限取り組んだ成果と評価する。

<働き方の改善>

○12 組合全てにおいて、これまでの交渉過程や通年の取り組みの中で、恒常的な長時間労働の是正や職場全体の生産性向上に資する話し合いが積極的に行われ、具体的な施策や労働条件・職場環境の改善にも繋がっている。賃金・一時金のみならず、こうした働き方課題に関する労使の主体的な取り組みが、今後も自動車産業の全ての個別労使に広がっていくことを強く期待している。

3. 今後の進め方について

○中小を含めた自動車総連全体の取り組みは、今後、車体・部品部門、販売部門、輸送部門、一般部門がヤマ場を迎えることとなる。

○全ての単組は、各労連が策定した戦術のもと、3月14日（水）から3月23日（金）の間で集中的に、各要求項目について同時回答を引き出すとともに、自動車総連全体では、回答指定日の重みを踏まえ、3月末決着を目指し最大限取り組み、遅くとも4月末までには全ての単組での決着を図っていく。

○また、交渉全体における課題や成果については、自動車総連全体の交渉結果を見定めつつ、取り組み総括の中であらためて論議していく。